

音楽科

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input checked="" type="checkbox"/> 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
曲想と音楽の構造との関わりを理解するために必要な知識を身に付けること 創意工夫を生かした表現を行うために必要な技能を身に付けること	曲にふさわしい音楽表現を自ら考え、創意工夫したことを自分の言葉で伝えること 音楽のよさや美しさを味わって聴き、適切に批評できること

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校時は、読譜の機会がそれほど多くないと思われ、楽譜上に示されている強弱記号等の基礎的な知識が定着していない生徒がいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 感性豊かな生徒が多い。しかし、落ち着いて考えたり、考えたことを言葉として表現したりすることが難しい生徒がいる。特に正しい文字や文章を書くことが苦手な生徒が少なくない。	<input checked="" type="checkbox"/> 覚えていなかった基礎的な事項や新しく学習する語句等は、教科書やワークノートで調べて直接楽譜に書き込み、調べた教科書やワークノートにも必ず印を付けることで学習の軌跡を残すようにさせる。 <input checked="" type="checkbox"/> 文章表現の基本的なパターン学習や、批評文等に最低限必要な語句の書き取りを随時行う。また、生徒が記述したものを読み上げたり、タブレット端末を活用して紹介したりしながら、表現のヒントを与える。	<input checked="" type="checkbox"/> 通年	<input checked="" type="checkbox"/> 新しく目にする楽語について、自分で確認する方法を学ばせることができたが、基礎的な知識の定着が不十分な生徒には、自分で確認するようその都度声掛けをする必要がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 批評文等の記述に際して、表現や語句の間違いに意識を向けさせることができたが、実際にはまだ正しく記述できるところまでは到達していない。
第2学年	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に日本の伝統的な音楽に触れる機会が少ないため、経験不足から知識も乏しい。 <input checked="" type="checkbox"/> 楽曲の表現に関して、詞の内容を十分に理解することが難しく、作曲者の意図を汲みながら主体的に表現の工夫を考えることが苦手な生徒がいる。また、正しい文字や文章を書くことが苦手な生徒がいる。	<input checked="" type="checkbox"/> 日本の楽器を実際に見せ、その音色を生で聴かせることで、日本の伝統的な音楽についての興味を喚起し、学習につなげる。 <input checked="" type="checkbox"/> ワークシートを活用し、まずは自ら考えた上で、他の生徒の考えを聞く機会を多くもつ。さらに、批評文等に最低限必要な語句の書き取りを随時行う。	<input checked="" type="checkbox"/> 2学期 <input checked="" type="checkbox"/> 3学期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年	<input checked="" type="checkbox"/> 師範により、三味線の奏法や実際の音色に触れることができた。また、グループでの活動を通して和太鼓を演奏することができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 批評文等を記述する際の正しい漢字や表現がまだ十分には身に付いていない。
第3学年	<input checked="" type="checkbox"/> 多様な音楽とそれぞれの文化や歴史的背景との関係について、興味・関心をもって学習することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 楽譜に示されている記号に関して、なぜそこでその表現が必要なのか、十分に作曲者の意図を理解して表現することがまだ苦手である。	<input checked="" type="checkbox"/> 音楽史の学習と平行して多様な音楽を鑑賞する機会を多くもつ。 <input checked="" type="checkbox"/> ワークシートを活用し、作曲者の意図やそれに基づく表現の工夫などを具体的に考え、実際に表現する際のイメージをパートやクラス全体で共有できるようにする。	<input checked="" type="checkbox"/> 2学期 <input checked="" type="checkbox"/> 3学期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年	<input checked="" type="checkbox"/> 時代背景や楽曲の特徴などを理解しながら鑑賞することで、様々な楽曲により興味をもつようになった。 <input checked="" type="checkbox"/> 楽曲のイメージを伝えようという意識をもって演奏できるようになった。

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 批評文や創作作品、ワークシートの記述などをタブレット端末で提出させ、添削したり、クラスの中で共有したりする。また、アンケート機能を活用し、クラスや学年みんなの考えや意向をその場で確認する。 歌唱などの実技を個々のタブレット端末で録画し、自分の演奏を客観的に振り返ることができるようにする。 Google Classroom にアップした音源で、個人でも随時練習ができるようにする。 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標設定とその成果の振り返りを毎時間行い、記録する。 比較的達成感を得やすい聴音を継続的に行ったり、創作や楽曲分析、鑑賞に時間をかけたりすることで、歌や笛の実技が苦手な生徒でも積極的に音楽の学習に取り組めるようにする。 ワークシート等に記入させる際には、必ず評価の観点を丁寧に説明し、適切に思考・判断・記述できるように配慮する。
---	--